

食育の系統化に関する研究（Ⅱ） — 「食」を核にした市民教育カリキュラムの 構想に向けて—

広木 正紀*・松林 昭**

Study on Structurization of Food Education (Ⅱ) :
To Develop a Curriculum for the Public Where 'Food' Is Placed as a Core Concept

Masanori HIROKI*, and Akira MATSUBAYASHI**

抄録：これからの公教育の最も重要な課題は、地球市民としての学びを支援する教育内容を構築していくことである。筆者らは、そのような教育内容として「食」を核にしたカリキュラムの開発を目指した研究に取りかかった。研究の手がかりとして、「小・中学校のいろいろな場における食育実践」を例示した「食に関する指導の手引—第一次改訂版—（文部科学省 2010）」に着目した。本報では、「手引」に例示されている全ての学習活動の、教科等の枠組みにこだわらない分類を、KJ 法を使って試みた。その結果、3つのカテゴリー「1) 食と、体・心の健康、2) 調理と食事、3) 世界への窓としての食」および、22のサブカテゴリーが浮かび上がった。得られた結果と本研究の位置づけについて、地球市民教育の観点から考察した。

索引語：地球市民教育、カリキュラム開発、食育、食に関する指導の手引、KJ 法

Abstract : One major issue emerging in the field of public education is the development of curricula to support learning from the viewpoint of the global citizen. We believe that the development of a curriculum where 'food' is placed as a core concept would address this issue. Based on this belief, we started a study by setting an eye on the Guide Book for Food Education (Ministry of Education, Japan 2010) , which exemplifies a number of learning activities in each subject or scene of elementary and junior high schools. We looked for ways, beyond the existing framework such as subjects, to group all of the activities shown in the Guide Book using the KJ method. The results identified 3 categories: 1) food and health, 2) cooking and diet, 3) food as a window to the world; and 22 sub-categories. The results and the meaning of the study were discussed from the perspective of the coming education for the global citizen.

Key Words : public education, curriculum development, global citizen, food, the guide book for food education, KJ method

* 京都教育大学 名誉教授（元理学科）

** 京都教育大学 非常勤講師

1. はじめに

近年、食育の重要性への意識が強まる中、文部科学省により、「食に関する指導の手引」¹⁾（以下、「手引」と略記）が発行された。

「手引」には、各教科やその他、学校のいろいろな場面でどのような食育が可能かについて手がかりとなる多くの学習内容が例示されており、食育推進を図る上での意義は大きい。一方で、食育のこれからの課題も浮き彫りになった。すなわち「手引」は、食育の現状を反映し、食育としての系統性が練られていないまま、学習内容を教科等の枠組ごとに例示するものとなっている。ただ、「手引」は、食育にかかわるたくさんの学習内容の例示を、広い領域に渡って行っているので、『食育カリキュラムを広い視野から組み立てる際の素材』を提供していると言え、その点でも「手引」の意義は大きい。

前報は、「手引」に挙げられている食にかかわる学習内容のうち、「教科」の中で例示されているものに着目した。それらを分析・精査した結果、食に関する学習のカテゴリーとして、食と健康のかかわり、調理法、食事を支える人的・物的環境などに加え、食が、社会や自然界へと世界を広げる窓口となることも導出された（松林・広木 2014²⁾）。

本報は、より広い視野から食育の系統化を目指すには、学習内容のカテゴリー化を、教科だけでなく教科外の学習内容も合わせて行うことが必要と考え、対象を、「手引」に例示されている教科と教科外を合わせた全学習内容とした。今回は、「食育を限られた領域に収めず、より広く包括的な市民教育カリキュラムの中心に位置づける構想」を意識する中での報告である。

2. 方法・手順

食に関する指導の手引－第1次改訂版－（文部科学省 2010¹⁾）に例示されている全ての学習活動の、教科等の枠組みにこだわらない分類を、KJ法を使って既報（松林・広木 2014³⁾、広木 2014⁴⁾）に準じた次の手順で行った。

1. 指導内容の抜き出し

「手引」¹⁾の第3章の1「食に関する指導の展開（総論）；pp.46-175（①社会，②理科，③生活，④家庭，技術・家庭，⑤体育，保健体育，⑥道徳，⑦総合的な学習の時間，⑧特別活動）」および、第4章の2「給食の時間における食に関する指導；pp.200-216」に挙げられている指導事例を抜き出した。

2. 「指導」を「学習」の形の記述に変換

「手引」では、「指導の内容」の形で記述されていたのを、全て児童・生徒の側から捉えた「学習活動」の形の記述に変換した⁵⁾。

3. 学習内容の項目化

抜き出された指導内容（2で学習内容の形に変換）が、複数の内容を含むものについては、内容を分け、1つの内容が1つの項目になるようにした（例.「食材の栄養と由来」→「食材の栄養」を1項目、「食材の由来」を1項目）。

4. 項目のカード化

項目化した各学習内容が1カードになるよう、1項目ずつカードに書き出した。

5. カードのグループ化を通じた、新たなカテゴリー探し

カードを机上に広げてそれぞれの内容をチェックしつつ、各学習活動が「手引」における教科等の枠組のいずれに挙げられていたか、にこだわらないグループ化を通して、新たなカテゴリーの導出を図った。

3. 結果

1. 抜き出された「食」にかかわる学習内容

「手引」から抜き出した「食」にかかわる学習内容のうち、『教科』の枠組の中で挙げられているものについては、前報（松林・広木 2014）で 1 つの表に整理して示した⁶⁾。本報では、『教科外（道徳、総合的な学習の時間、特別活動、給食の時間）』の枠組に挙げられているものを示す（表 1）。

学習内容項目は、教科の枠組に挙げられていたもの 89 項目、教科外の枠組に挙げられていたもの 101 項目、合わせて 190 項目であった。

表 1. 食に関する指導の手引（第一次改訂版）（文部科学省 2010）¹⁾ に紹介されている、小・中学校の『教科外』での、食に関する学習内容（本文における「2. 方法・手順」の 1 ～ 3 の結果として書き出された 101 項目）。

	道徳	総合的な学習の時間	特別活動	給食の時間
校種（小学校・中学校）を限定しない内容				▼食事のマナーに注意しながら給食を食べる (p204) 小・中学校給食の時間 ▼給食で様々な人々と会食する (p204) 小・中学校給食の時間 ▼食品の種類・働きや栄養バランスの点に注意しながら給食を食べる (p204) 小・中学校給食の時間 ▼日常の食事の大切さ、健康によい食事のとり方に注意して給食を食べる (p204) 小・中学校給食の時間 ▼安全・衛生(手洗いなど)に留意して給食の準備や後片付けをする (p205) 小・中学校給食の時間 ▼給食の運搬や配膳を、安全に注意して行う (p207) 小・中学校給食の時間 ▼給食の際、食事の準備や後片付けを、当番・係・それ以外の者皆が、互いに協力して思いやりや責任を持つて自主的に活動する (p207&p208) 小・中学校給食の時間

	道徳	総合的な学習の時間	特別活動	給食の時間
校種(小学校・中学校)を限定しない内容				▼食事にふさわしい環境づくり, ゆとりある落ち着いた雰囲気づくりに注意して給食に臨む(p207)小・中学校給食の時間 ▼「適切な食器具を利用した, 献立にふさわしい盛り付け」に注意して給食を準備する(p207)小・中学校給食の時間 ▼「環境や資源への配慮」ということに注意して給食を食べる(p207)小・中学校給食の時間 ▼地域の食文化にかかわる郷土食や行事食との関わりに注意して給食を食べる(p207)小・中学校給食の時間 ▼地場産業を通じた地域の食料の生産・流通・消費に注意して給食に臨む(p208)小・中学校給食の時間 ▼自然の恵みや, 食事がつくられるまでに関わった多くの人々への感謝の気持ちをもち, 給食を食べる(p208)小・中学校給食の時間 ▼「いただきます」「ごちそうさま」の意味を込めたあいさつを通し, 感謝の気持ちをもち, 給食を食べる(p208)小・中学校給食の時間
小学校	▼誕生してから, 母乳, 離乳, 離乳食, 一般食など, 食べ物が生命の維持に深く関係していることについての説明を, パネルなどを見ながら聞く(p122)小学校道徳 ▼自然環境が動物に与える影響や食物との関係について, クイズなどを通して考える(p122)小学校道徳 ▼1人1~2枚ずつ持参した幼いころの写真を見ながら, 家族との食事や楽しい思い出について話し合う(p122)小学校道徳 ▼郷土の農産物と食物の関係を示したカルタで遊ぶ(p122)小		▼全校なかよし新聞の「給食特集」の内容を, 全校のみんなが興味をもって楽しく読んでくれるように工夫してつくる(新聞委員会の活動)(p158)小学校特別活動 ▼異学年の児童が協力し, 一人一人の考えを生かして楽しく活動できる年間の計画を立てる(料理クラブの活動)(p159)小学校特別活動 ▼学年や学校の全員で育てた野菜を収穫し, 野菜作りでお世話になった方を招待し, みんなで味わう(学校行事)(p163)小学校特別活動	

	道徳	総合的な学習の時間	特別活動	給食の時間
小学校	学年を限定しない内容やまたがる内容 学校道徳 ▼食べ物の好き嫌いをしたり給食を残したりする主人公が、給食センターや給食室で一生懸命働いている人たちを見て自分自身の行動を振り返る話を読む(p122) 小学校道徳 ▼学校給食に携わる人達の仕事の様子や、児童への思いについて、栄養教諭の話を読みたり資料を読んだりし、その人たちへの気持ちについて話し合う(p122) 小学校道徳 ▼はしや食器の扱い方などの食事のマナーに関する活動を行い、礼儀作法に込められた心などについて、また日常の各自の体験について話し合う(p122& p126) 小学校道徳 ▼農業や漁業に携わる人々の働く姿や働いているときの思いを記した資料をもとに話し合う(p122) 小学校道徳 ▼児童の成長を願うある家族からの手紙を読み、家族の大切さについてまとめる(p123) 小学校道徳 ▼いつもどんな気持ちで手伝いをしているか話し合う(p123) 小学校道徳		▼地域の特産野菜について、調査、栽培、伝統料理づくりなどに地域の方々の協力を得ながら取り組む(クラブ活動)(p160) 小学校特別活動 ▼料理クラブとして活動計画を立てて取り組み、活動内容、料理の楽しさ、地域の食文化などを全校に伝える(p161&p162) 小学校特別活動 ▼国際交流に関するクラブにおいて、外国と日本の両方の食文化に触れる(p161) 小学校特別活動 ▼全校発表会などで、地域の伝統的食文化についての学習成果を発表したり、鑑賞したりする(p162) 小学校特別活動 ▼給食を友達と楽しく和やかに食べるための机の配置やグループの作り方、食事前や食事中における楽しい話題や過ごし方などについて学級で話し合う(p151) 小学校特別活動 ▼全校縦割りグループによる給食や地域の方々、幼児・高齢者・外国人等との給食交流会の計画について、児童会活動として話し合い、協力し合って準備・実施に取り組む(p152&p157) 小学校特別活動 ▼給食当番とは別に、給食への関心を高める係活動(給食献立お知らせ係や学級レストラン係など)を行う(p152) 小学校特別活動 ▼係活動のひとつとして、学級に給食に関するコーナーを設置し(背面黑板等)、お知らせや新聞、アンケート調査(給食献立ベストテン等)、食に関する資料などを掲示したりする(p152) 小学校特別活動 ▼給食の配膳を、輪番制で、全員が経験する(p152) 小学校特別活動	

	道徳	総合的な学習の時間	特別活動	給食の時間
小学校	学年を限定しない内容やまたがる内容		▼給食委員会や健康委員会が、食事と健康などに関する調査活動や広報活動などを行う(児童会活動)(p158)小学校特別活動 ▼楽しい給食の時間になるように、放送委員会として、放送内容を工夫する(児童会活動)(p158)小学校特別活動 ▼「給食の食べ残しの多い日・少ない日と、献立の関係」を調べて全校に報告し、「残さいゼロの日運動」を呼び掛けたり、苦手な食べ物が食べられるようになった友達の体験談集を作成したりする(児童会活動)(p158)小学校特別活動 ▼食育に関して情報提供をするコーナーを校内に設け、給食委員会の活動を紹介したり、作成したポスターや新聞を掲示したりする(児童会活動)(p158)小学校特別活動	
1年				
2年			▼どんなうんちがでているかを一定期間家族と一緒に調べ、感想の発表や、食事・排便・運動との関係の話し合いを踏まえ、各自のめざすうんちの絵と頑張ることをカードに書く(p154)小学校2年特別活動	
3年		▼給食に使われている食材をどこで誰がどんなふうにつけているのか、実際に生産地を探検し、作り方・苦労・楽しいと感じることなどをインタビューしてポスターにまとめ、発表会で交流し合う(p136)小学校3年総合的な学習の時間 ▼祖父母など身近な高齢者に取材し、昭和初期頃の食事の様子・食材・メニュー・マナーなどについて今	▼健康係として、学級皆の食材の好き嫌いや、嫌いなものが出てきたときどうしているかの調査を行う(p156)小学校3年特別活動 ▼栄養教諭から栄養バランスの大切さ・給食の献立の工夫を聞く(p156)小学校3年特別活動 ▼苦手な食べ物が食べられるようになった経験や工夫して食べている例を発表し合う。それらを踏ま	

		道徳	総合的な学習の時間	特別活動	給食の時間
小学校	3年	▼外国の食文化やそれを受け継ぐ人たちの生き方を伝える読み物や映像資料等をもとに、その人たちの思いなどを話し合う(p122)小学校3・4年道徳 ▼給食のときのうれしいこと、楽しいことについて話し合う(p124)小学校3・4年道徳 ▼給食について書いたある児童の日記を読むなどして、今までの給食に対する考えや食べ方を振り返る(p124)小学校3・4年道徳	の自分たちの食事の様子と比べながら調べる(p136)小学校3年総合的な学習の時間 ▼昔の給食と今の給食を、写真や模型を見て、或いは実際に食べて比べる(p139)小学校3年総合的な学習の時間	え、自分なりの工夫や目標を、実践カードに記入し発表したり、給食にかかわってくれている人たちに、好き嫌いを減らそうとしている自分たちのがんばりと感謝の気持ちをどのように伝えるか話し合ったりする(p156)小学校3年特別活動	
	4年		▼心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい食事や運動、睡眠について、特に“いいウンコ”とのかかわりについて調べる(p136)小学校4年総合的な学習の時間 ▼各地域にある食に関する特産物と、それらをおいしく調理する方法や郷土料理などを調べ、地域に住む人々の工夫について考える(p136)小学校4年総合的な学習の時間		
	5年		▼大豆を使った食品(豆腐・味噌・納豆・醤油など)とその作り方や大豆の栄養、大豆の自給率と輸出入の状況などについて調べる(p136)小学校5年総合的な学習の時間 ▼米の産地と種類、歴史、輸出入の状況を調べる(p136)小学校5年総合的な学習の時間 ▼米ができるまでの世話について農家の人に教わり、実際に稲を栽培・収穫・炊飯して味わう活動を行う(p136)小学校5年総合的な学習の時間 ▼農家の人に教わりながらソバや小麦の栽培・収穫を体験する中で、肥料のやり方や農薬の是非などについて考える(p136)小学校5年総合的な学習の時間 ▼農家の人に教わりながらソバや小麦の栽培・収穫を体験する中で、地域の自然条件の水田耕作への適否などについて考える(p136)小学校5年総合的な学習の時間		

		道徳	総合的な学習の時間	特別活動	給食の時間
小学校	5年		的な学習の時間 ▼自分たちで収穫したソバや小麦で、そばやうどんを打ち、お世話になった人々と味わいながら、地域の食文化をはぐくんできた人々の知恵や工夫について考える (p137) 小学校5年総合的な学習の時間 ▼食物アレルギーについて調べ、食をめぐる様々な問題について考える (p137) 小学校5年総合的な学習の時間 ▼「いただきます」という言葉から思うことについて、また資料「いただきます」を読んで、話し合う (p126) 小学校5・6年道徳 ▼栄養教諭の、正しいはしや食器の使い方の説明を聞き、食事のマナーと日常のほかのマナーとの共通点について考える (p126) 小学校5・6年道徳		
	6年		▼わが家のおせち料理や各地の伝統的なおせち料理について調べ、それらを比較して昔の人のおせち料理に込めた願いについて考える (p137) 小学校6年総合的な学習の時間 ▼欠食したりファストフードで済ませたりしがちな休日の昼食の在り方について、学校給食と比較しながら考える (p137) 小学校6年総合的な学習の時間 ▼自分たちでも作れる手軽で栄養バランスのとれた一食分のお奨めメニューを考え、家庭でも実践できるレシピ集にまとめる (p137&p141) 小学校6年総合的な学習の時間		
中学校	学年を限定しない内容やまた	▼資料「明日への出発 (走った後、朝ごはんをきちっと食べるように生活を改めることで、朝ごはんをおいしく食べられ、一日の始まりが気持ちよく送れるようになった主人公の話)」を読んで、生活のリズム作りについて心掛けてきたことを話し合い、栄養教諭による食事が		▼学級内の食事内容調査や嗜好調査を行い、各自の食生活に関する課題を意識した上で、栄養教諭の説明や資料をもとに、「中学校の時期に多くの栄養が必要な理由や成長期の望ましい食生活」について話し合う。それを踏まえ、各自が食生活改善について考え実践を図り、	

	道徳	総合的な学習の時間	特別活動	給食の時間
中学校	生活習慣や生活のリズムについての話を聞く(p132) 中学校道徳 ▼心のノート中学校版* p19の「元気ですか あなたの心とからだ」の中の、生活を振り返るチェック項目「あなたはどのようにしていますか？」に各自が記入し、それをもとに、これまでの生活について話し合う(p131&p132) 中学校道徳 ▼自然環境の変化のグラフから、自然破壊が食物を脅かしていることを読み取る(p131) 中学校道徳 ▼世界各国の食文化を表す写真集やパンフレットを見る(p131) 中学校道徳 ▼昔からの生活習慣としてなじんでいる「いただきます」「ごちそうさま」の言葉やはその作法などの意味について解き明かしたエッセイをもとに、食事の礼儀作法などについての各自の考えを深める(p131) 中学校道徳 ▼戦争中、食料不足でどの家庭も一日の食事を確保することが大変だったことについて、戦争体験者から話を聞く(p131) 中学校道徳 ▼郷土の農業の発展に努め、困難を乗り越え食物の開発と増産に努めた先人をえがいた資料をもとに話し合う(p131) 中学校道徳 ▼受けつがれてきた和食の伝統を守りながら、そのよさを追求している料理家が書いている文章をもとに、我が国のすぐれた食文化や食に関する伝統のよさなどについて話し合う(p131) 中学校道徳 ▼朝ご飯を食べた時と食べない時の体の状況の違いや学習意欲への影響などについて、統計資料等をも		実践の様子を給食の時間等にグループなどで報告し合う(p170) 中学校特別活動 ▼偏りのない食事ができるようにすることなどについて話し合う(p169) 中学校特別活動 ▼「食事のマナーが守られ、和やかで楽しい給食の時間になるようにする」「給食の時間が好ましい人間関係を築く時間となるようにする」などについて話し合う(p169) 中学校特別活動 ▼給食委員会や健康委員会のメンバーが、自分の学級の給食や健康に関する諸問題を調査して問題点を指摘したり、改善方法を提案したりする(p169) 中学校特別活動 ▼学級の背面黒板等に、健康と食習慣、栄養バランスを考えた食事など、学級活動の時間に活用した資料や、生徒会の専門委員会や学級の係が作成したアンケートや新聞を掲示し、食や健康に関する環境を整備する(p170) 中学校特別活動 ▼学校行事などとして行う地域の職場での勤労体験等をもとに、働く目的・意義や、働くことと生きがいについて考える(p170) 中学校特別活動 ▼栄養教諭などと相談して食事の内容や嗜好の調査を行う(p170) 中学校特別活動 ▼成長期における望ましい食生活について栄養教諭の説明や資料をもとにして話し合う。それを踏まえて、各々が食生活を振り返り、改善点等を発表し合う(p170) 中学校特別活動 ▼給食委員会等が、「給食当番の清潔な服装」等、食に関する学校生活改善のための多様な活動に取り組む(生徒会活動) (p172)	

	道徳	総合的な学習の時間	特別活動	給食の時間
中学校	学年を限定しない内容やまたがる内容 とに確める(p132)中学校道徳 ▼米作りや野菜作りに一生懸命に励んでいる人たちの映像を視聴する(p132)中学校道徳 ▼海外に知られている「すし」「天ぷら」などの日本の料理についての外国人の感想を手紙などで読む(p132)中学校道徳		中学校特別活動 ▼給食委員会等が、「残さいについて」等、食に関する学校生活改善のための多様な活動に取り組む(生徒会活動)(p172)中学校特別活動 ▼全校に向けた食に関する啓発活動として、給食や望ましい食生活に関するポスターの制作などを行う(生徒会活動)(p173)中学校特別活動 ▼牛乳パックのリサイクルなど、地球環境に優しい環境づくりの活動に取り組む(生徒会活動)(p173)中学校特別活動 ▼全校生徒が、地域の方々とかわりながら学校農園で栽培を行い、収穫を共に感謝し喜びを分かち合う活動に取り組む(生徒会活動)(p173)中学校特別活動 ▼米や野菜、その他の地域の特産物について、栽培や飼育、稚魚の放流など、食に関する勤労体験活動を行う(学校行事)(p174)中学校特別活動 ▼修学旅行において、実際に食べたり生産活動に参加したりすることを通して、その地域の伝統的な食文化に触れる(学校行事)(p175)中学校特別活動	
1年		▼歌舞伎・茶道・和太鼓・和食など、身近にある「和文化」のルーツや内容について、課題別グループで実際に体験しながら調べ、「和文化ガイドブック」にまとめる(p137)中学校1年総合的な学習の時間 ▼近海で捕れる魚の名前や特徴、伝統的な調理の仕方を調べ、実際に魚を捕っている人や捕れた魚を加工している工場の人に取材する活動を通し、昔から受け継がれてきた地域の魚に関する食文化に対する		

		道徳	総合的な学習の時間	特別活動	給食の時間
中学校	1年		人々の思いや知恵について考える(p137) 中学校1年総合的な学習の時間 ▼実際に魚を釣って自分たちで郷土料理を作る体験を通して、自分たちの食生活を見直す(p137) 中学校1年総合的な学習の時間		
	2年		▼環境に優しく、経済的な調理法を考えることで、調理によって出されるゴミをなるべく少なくし、エネルギーを効率よく使って調理したり、残さず食べたりしようとするなど、自分たちの食事を見つめ日常生活の在り方を見直す(p137&p142) 中学校2年総合的な学習の時間 ▼身近で働く人の職場に出かけ、取材や働く体験を通して交流したり、身近にはない職業について考えたりして、社会にある多様な仕事や職業についてその役割・意義について考える(p137) 中学校2年総合的な学習の時間 ▼私たちの食を支える生産者(農業・漁業従事者)の思いや夢、工夫や情熱について講演を聴く(p138) 中学校2年総合的な学習の時間		
	3年		▼食卓に上る海産物の種類とそれらが捕れる海域について調べたり、近くで捕れる海産物について漁業関係者に取材して、海が私たちにもたらしてくれる恵みについて考える(p138) 中学校3年総合的な学習の時間 ▼海水を蒸発させて塩を取り出す活動を通して、海が私たちにもたらしてくれる恵みについて考える(p138) 中学校3年総合的な学習の時間 ▼捕鯨問題等、世界の中での日本の水産業の在り方について考える(p138) 中学校3年		

		道徳	総合的な学習の時間	特別活動	給食の時間
中学校	3年		総合的な学習の時間 ▼ふだん食べている食品のラベルを集め、記載されている産地や食品添加物、賞味期限等について分類し、食品添加物の種類や効果・安産性などについて調べたり着色実験や保存実験をしたりして食品添加物の是非について話し合い、食品添加物の使用と生産や食料事情との関わりを考える (p138&p143) 中学校3年総合的な学習の時間		

* p.151, 「中学校」－「学年を限定しない内容やまたがる内容」の道徳欄：心のノートは文部科学省が作成し 2002 年（平成 14 年）、全国の小・中学校に無償配布した道徳の副教材。現在の「中学校用」は平成 21 年度改訂版（文部科学省 2009⁷⁾）。p19 の「生活を振り返るチェック項目」とは「自分の決めた時刻に起床・就寝、朝食はしっかり食べる、礼儀正しいあいさつ、身のまわりの整理整頓、時間を無駄にしない、金銭の無駄遣いをしない、健康的な生活を心がける」。

2. 「食」にかかわる学習内容をグループ化した一例

1 で、「手引き」における『教科の枠組』と『教科外の枠組』に挙げられていた全学習項目（190 項目）を、どの枠組に挙げられていたかにこだわらないグループ化を通して導出された新たなカテゴリーごとに示した一例を表 2 に示す。

表 2 の作成は、前述の「2. 方法・手順」によって行った（表 2 のタイトルに続く説明も参照）。その結果、まず全 190 の学習項目が 22 の項目群にグループ化された（表 2 でサブカテゴリーとして表記）。さらに、これら 22 のサブカテゴリーは 3 つの群にグループ化された（表 2 でカテゴリーとして表記）。

表 2. 食に関する指導の手引（第一次改訂版）（文部科学省 2010¹⁾）に紹介されている、小・中学校の学習内容を、教科等の枠組にこだわらずにグループ化したもの（全 190 項目）（本文における「2. 方法・手順」の 1 ～ 5 による結果）。

教科で挙げられていた項目の頭には◆を、教科外で挙げられていた項目の頭には▼を付した。

最右欄（学習項目欄）には、本文における「2. 方法・手順」の 1 ～ 4 の結果として、「手引」からカードに書き出した学習項目を示した。これら項目の、既成の枠に沿った表示は、教科（生活、理科、社会、家庭、技術・家庭、体育・保健体育）については前報⁶⁾で、教科外（道徳、総合的な学習の時間、特別活動、給食の時間）については、本報の表 1 に記載している。

本文における「2. 方法・手順」の 5（新たなカテゴリー探し）の結果の一例を、本表では次のように示した。

中央欄（サブカテゴリー欄）に、「最右欄に示した学習項目を「1 項目－1 カード」の原則で書き出したカードを机上に広げ、内容が似ているものを集めることによってできた学習内容グループ」のそれぞれにつけた名前（＝各学習内容グループの表札）を『サブカテゴリー』として示した。

最左欄（カテゴリー欄）に、「中央欄に示したサブカテゴリー相互間で、似ているものどうしを集めてできたサブカテゴリーグループ」のそれぞれにつけた名前（＝各サブカテゴリーグループの表札）を『カテゴリー』として示した。

カテゴリー	サブカテゴリー	学習項目
1) 食と、 体・心の 健康	①食事を通して、 楽しい・心地よ い等、有意義な 時間を過ごす	◆好きな料理を発表し合う（p87）小学校1・2年生活 ▼1人1～2枚ずつ持参した幼いころの写真を見ながら、家族との食事や楽しい思い出について話し合う（p122）小学校道徳 ▼給食のときのうれしいこと、楽しいことについて話し合う（p124）小学校3・4年道徳 ▼異学年の児童が協力し、一人一人の考えを生かして楽しく活動できる年間の計画を立てる（料理クラブの活動）（p159）小学校特別活動 ▼全校縦割りグループによる給食や地域の方々、幼児・高齢者・外国人等との給食交流会の計画について、児童会活動として話し合い、協力し合って準備・実施に取り組む（p152&p157）小学校特別活動 ▼給食で様々な人々と会食する（p204）小・中学校給食の時間 ▼給食を友達と楽しく和やかに食べるための机の配置やグループの作り方、食事前や食事中における楽しい話題や過ごし方などについて学級で話し合う（p151）小学校特別活動 ▼楽しい給食の時間になるように、放送委員会として、放送内容を工夫する（児童会活動）（p158）小学校特別活動 ▼食事にふさわしい環境づくり、ゆとりある落ち着いた雰囲気づくりに注意して給食に臨む（p207）小・中学校給食の時間
	②食生活や給食の 意義や課題を 学ぶ	▼給食について書いたある児童の日記を読むなどして、今までの給食に対する考えや食べ方を振り返る（p124）小学校3・4年道徳 ▼給食当番とは別に、給食への関心を高める係活動（給食献立お知らせ係や学級レストラン係など）を行う（p152）小学校特別活動 ▼全校なかよし新聞の「給食特集」の内容を、全校のみんなが興味をもって楽しく読んでくれるように工夫してつくる（新聞委員会の活動）（p158）小学校特別活動 ◆これからの自分の食生活の在り方についてまとめる（p52）小学校5年社会 ▼成長期における望ましい食生活について栄養教諭の説明や資料をもとにして話し合う。それを踏まえて、各々が食生活を振り返り、改善点等を発表し合う（p170）中学校特別活動 ▼全校に向けた食に関する啓発活動として、給食や望ましい食生活に関するポスターの制作などを行う（生徒会活動）（p173）中学校特別活動 ▼料理クラブとして活動計画を立てて取り組み、活動内容、料理の楽しさ、地域の食文化などを全校に伝える（p161&p162）小学校特別活動 ▼「給食の食べ残しの多い日・少ない日と、献立の関係」を調べて全校に報告し、「残さいゼロの日運動」を呼び掛けたり、苦手な食べ物が食べられるようになった友達の体験談集を作成したりする（児童会活動）（p158）小学校特別活動 ▼食育に関して情報提供をするコーナーを校内に設け、給食委員会の活動を紹介したり、作成したポスターや新聞を掲示したりする（児童会活動）（p158）小学校特別活動 ▼学級の背面黒板等に、健康と食習慣、栄養バランスを考えた食事など、学級活動の時間に活用した資料や、生徒会の専門委員会や学級の係が作成したアンケートや新聞を掲示し、食や健康に関する環境を整備する（p170）中学校特別活動

カテゴリー	サブカテゴリー	学習項目
1) 食と、 体・心の 健康	②食生活や給食 の意義や課題を 学ぶ	▼係活動のひとつとして、学級に給食に関するコーナーを設置し（背面黑板等）、お知らせや新聞、アンケート調査（給食献立ベストテン等）、食に関する資料などを掲示したりする（p152）小学校特別活動
		▼給食委員会や健康委員会が、食事と健康などに関する調査活動や広報活動などを行う（児童会活動）（p158）小学校特別活動
	③食が健康に とって重要であ ることを学ぶ	▼資料「明日への出発（走った後、朝ごはんをきちっと食べるように生活を改めることで、朝ごはんをおいしく食べられ、一日の始まりが気持ちよく送れるようになった主人公の話）」を読んで、生活のリズム作りについて心掛けてきたことを話し合い、栄養教諭による食事が作る生活習慣や生活のリズムについての話を聞く（p132）中学校道徳
		▼誕生してから、母乳、離乳、離乳食、一般食など、食べ物が生命の維持に深く関係していることについての説明を、パネルなどを見ながら聞く（p122）小学校道徳
		▼日常の食事の大切さ、健康によい食事のとり方に注意して給食を食べる（p204）小・中学校給食の時間
		◆食事と健康について話し合う（p115&p117）中学校保健体育 - 保健分野
		▼朝ご飯を食べた時と食べない時の体の状況の違いや学習意欲への影響などについて、統計資料等をもとに確める（p132）中学校道徳
	④食物の身体 のつくりや働きに おける役割を学 ぶ	◆食べ物が消化液によってどのように変化するか調べる（p82）中学校理科 2 分野
		◆食べ物の栄養分は、体のどこで吸収されるか調べる（p81）中学校理科 2 分野
		◆骨格標本を見て、体全体の骨のつくりを調べる（p70）小学校 4 年理科
		◆咀嚼の役割について考える（p81）中学校理科 2 分野
		◆カルシウムの働きを知るため、手のレントゲン写真と骨粗しょう症のレントゲン写真を比べる（p70）小学校 4 年理科
		◆計画をもとに実験を行い、だ液の働きによってデンプンが糖に分解されることを明らかにする（p81）中学校理科 2 分野
		◆だ液によって、デンプンが糖に分解されることを調べるための実験計画を立てる（p81）中学校理科 2 分野
		◆腕の骨のつくりを思い出しながら、足などの体の骨がどうなっているかを予想する（p70）小学校 4 年理科
		◆これまでの調理実習や日常の食事に使われている食品に主に含まれている栄養素の種類や働きを、コンピューターや調理カードで調べる（p98）小学校 6 年家庭
		◆朝食・昼食（給食）の食品について、食品の体内での主な働きにより、3つのグループ（主にエネルギーのもとになる、体をつくるもとになる、体の調子を整えるもとになる）に分け、栄養のバランスがとれているかどうかを確認する（p97）小学校 6 年家庭
		◆「食品に含まれる栄養素が体の成長や活動のもとになること」「栄養素には炭水化物・脂質・たんぱく質・無機質・ビタミンがあり、5大栄養素と呼ばれること」「5大栄養素の3つの食品グループとの関連」「5大栄養素の体内での働き」についての解説を聞く（p97）小学校 6 年家庭
		◆体に吸収される栄養分にはどのようなものがあるか調べる（p82）中学校理科 2 分野

カテゴリー	サブカテゴリー	学習項目
1) 食と、 体・心の 健康	④ 食物の身体 のつくりや働きに おける役割を学 ぶ	▼食品の種類・働きや栄養バランスの点に注意しながら給食を食べる (p204) 小・中学校給食の時間
		◆食品別エネルギー量，作業・運動別の消費エネルギー量，栄養素の 不足やとりすぎによる障害例などの参考資料をもとに，バランスのと れた食事とはどんなものかを考える (p116) 中学校保健体育 - 保健分野
		◆朝食の取り方の課題を把握するため，自分の朝食の食品について3 つのグループ分け（主にエネルギーのもとになる，体をつくるもとに なる，体の調子を整えるもとになる）を行う (p97) 小学校6年家庭
		◆自分の食事を振り返り，魚の摂取状況や，魚の栄養的な特質につい て調べる (p106) 中学校技術・家庭 - 家庭分野
	⑤ 食事バランス の重要性を学ぶ	▼学級内の食事内容調査や嗜好調査を行い，各自の食生活に関する課 題を意識した上で，栄養教諭の説明や資料をもとに，「中学校の時期 に多くの栄養が必要な理由や成長期の望ましい食生活」について話し 合う。それを踏まえ，各自が食生活改善について考え実践を図り，実 践の様子を給食の時間等にグループなどで報告し合う (p170) 中学校 特別活動
		◆苦手だったり，食べたことのなかった食材で，食べられるようになった ものについて調べる (p87) 小学校1・2年生活
		◆苦手だったり，食べたことのなかった食材が食べられるようになった きっかけを，エピソードとしてまとめる (p87) 小学校1・2年生活
		◆体を発育・発達させるための食事について調べ，発表する (p110) 小学校3・4年体育
		▼苦手な食べ物が食べられるようになった経験や工夫して食べている 例を発表し合う。それらを踏まえ，自分なりの工夫や目標を，実践カー ドに記入し発表したり，給食にかかわってくれている人たちに，好き 嫌いを減らそうとしている自分たちのがんばりと感謝の気持ちをどの ように伝えるか話し合ったりする (p156) 小学校3年特別活動
		▼栄養教諭などと相談して食事の内容や嗜好の調査を行う (p170) 中 学校特別活動
		▼健康係として，学級皆の食材の好き嫌いや，嫌いなものが出てきた ときどうしているかの調査を行う (p156) 小学校3年特別活動
		▼偏りのない食事ができるようにすることなどについて話し合う (p169) 中学校特別活動
		▼欠食したりファストフードで済ませたりしがちな休日の昼食の在り 方について，学校給食と比較しながら考える (p137) 小学校6年総合 的な学習の時間
		▼食物アレルギーについて調べ，食をめぐる様々な問題について考え る (p137) 小学校5年総合的な学習の時間
	⑥ 健康と生活習 慣全体（食事・ 排便・運動・休養・ 睡眠）の中での 食に注意を払う	◆自分の1日の生活を振り返る (p116) 中学校保健体育 - 保健分野
		◆生活習慣に関する調査を踏まえ，調和のとれた生活と健康について まとめる (p116) 中学校保健体育 - 保健分野
		◆生活行動が主な要因となって起こる病気にはどんなものがあるかを 考える (p112) 小学校5・6年体育
		▼心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい食事や運動，睡眠につ いて，特に“いいウンコ”とのかかわりについて調べる (p136) 小学 校4年総合的な学習の時間
		◆自分の生活を振り返り，調和のとれた食事，適切な運動，休養及び 睡眠が必要であることが実践できているか確認する (p111) 小学 校3・4年体育

カテゴリー	サブカテゴリー	学習項目
1) 食と、 体・心の 健康	⑥健康と生活習慣全体（食事・排便・運動・休養・睡眠）の中での食に注意を払う	◆休養及び睡眠と健康について話し合う（p116）中学校保健体育 - 保健分野
		▼どんなうんちがでているかを一定期間家族と一緒に調べ、感想の発表や、食事・排便・運動との関係の話し合いを踏まえ、各自のめざすうんちの絵と頑張ることをカードに書く（p154）小学校2年特別活動
		◆体を発育・発達させるための運動、休養及び睡眠について話し合う（p111）小学校3・4年体育
		◆グループごとに設定された生活習慣に関する課題について、生活に関する実態調査の資料等をもとに調べ、結果を発表する（p116）中学校保健体育 - 保健分野
		▼児童の成長を願うある家族からの手紙を読み、家族の大切さについてまとめる（p123）小学校道徳
		◆生活習慣病がどのようにして起こるか調べる（p112）小学校5・6年体育
		◆生活習慣病の予防についてまとめる（p112）小学校5・6年体育
		▼給食委員会や健康委員会のメンバーが、自分の学級の給食や健康に関する諸問題を調査して問題点を指摘したり、改善方法を提案したりする（p169）中学校特別活動
		◆朝食欠食や過度のダイエットの問題とかかわらせながら、規則正しい生活について考える（p117）中学校保健体育 - 保健分野
		▼心のノート中学校版* p19の「元気ですか あなたの心とからだ」の中の、生活を振り返るチェック項目「あなたはどのようにしていますか？」に各自が記入し、それをもとに、これまでの生活について話し合う（p131&p132）中学校道徳
2) 調理と 食事	①献立をつくる	◆各自が、米飯、味噌汁、おかずを組み合わせ、朝食の献立を作成する（p98）小学校6年家庭
		◆朝食や昼食（給食）の栄養のバランスや食品の数、食品の組み合わせについて話し合う（p97）小学校6年家庭
		◆1食分（朝食）の献立を考える際の手順や留意点をまとめる（p98）小学校6年家庭
		◆栄養のバランスや調理方法を考えて、ムニエルや煮魚の調理の献立を作成し調理の計画を立てる（p107）中学校技術・家庭 - 家庭分野
		◆学校給食に毎日牛乳がでる理由について考える（p110）小学校3・4年体育
		◆給食の献立の材料を1枚の絵「給食のもとたどり」に表現する（p75）小学校6年理科
		◆他の児童のアドバイスなどをもとに朝食の献立を見直す（p99）小学校家庭6年
		◆朝食の献立の工夫や栄養のバランスについてグループで発表したり話しあったりする（p98）小学校6年家庭
		◆朝食・昼食（給食）の各食品の体内での主な働きについて、絵カードや「給食献立」を使った解説を聞く（p97）小学校6年家庭
		▼栄養教諭から栄養バランスの大切さ・給食の献立の工夫を聞く（p156）小学校3年特別活動
	②食材入手の際の工夫に注意を払う	◆学習を振り返り、スーパーマーケットの販売の工夫や消費者の工夫から、自分の生活に生かせることをまとめる（p50）小学校3・4年社会

カテゴリー	サブカテゴリー	学習項目
2) 調理と食事	②食材入手の際の工夫に注意を払う	◆家の人の品物の買い方を聞きとり調査し、話し合うことで、よりよい買い物の仕方についてまとめる (p50) 小学校3・4年社会
		◆買い物の経験について話し合い、買い物調べの計画を立て、家の人が行く店について調べる (p49) 小学校3・4年社会
		◆ムニエルや煮魚に適した魚、付け合わせに用いる野菜やいもなどの、生鮮食品の鮮度や品質などを見分ける観点について確認する (p107) 中学校技術・家庭-家庭分野
		◆買物客がよく集まるスーパーマーケットを見学し、スーパーマーケットに携わる人々が、たくさんの商品を買ってもらうために行っている工夫や努力について話し合う (p49) 小学校3・4年社会
	③調理に取り組む	◆家族のおにぎり作りを想起しながら、実際に自分たちでおにぎりを作り、気が付いたことを発表する (p86) 小学校1・2年生活
		◆ムニエルや煮魚の調理の実習の反省・評価を行う (p107) 中学校技術・家庭-家庭分野
		◆魚の調理上の性質とそれを利用した加熱調理の特徴について、ビデオ教材の視聴や調理実験を通して調べる (p106) 中学校技術・家庭-家庭分野
		◆ムニエルや煮魚について、焼く・煮るなどの調理方法の特徴について調べる (p106) 中学校技術・家庭-家庭分野
		◆安全と衛生や作業能率に留意して、ムニエルや煮魚、付け合わせの調理をグループで行う (p107) 中学校技術・家庭-家庭分野
		◆おにぎりについて家族から聞いてきたことを発表する (p85) 小学校1・2年生活
		◆栄養教諭がおにぎりを作る様子を見学し、家族のおにぎり作りを想起する (p85) 小学校1・2年生活
		◆タンパク質は、加熱によって、固さ、色、味、においが変化するため、調理の目的に合った加熱方法が必要であることを確認する (p106) 中学校技術・家庭-家庭分野
		▼自分たちでも作れる手軽で栄養バランスのとれた一食分のお奨めメニューを考え、家庭でも実践できるレシピ集にまとめる (p137&p141) 小学校6年総合的な学習の時間
	④テーブルマナーに注意を払う	▼食事のマナーに注意しながら給食を食べる (p204) 小・中学校給食の時間
		▼栄養教諭の、正しいはしや食器の使い方の説明を聞き、食事のマナーと日常のほかのマナーとの共通点について考える (p126) 小学校5・6年道徳
		▼「食事のマナーが守られ、和やかで楽しい給食の時間になるようにする」「給食の時間が好ましい人間関係を築く時間となるようにする」などについて話し合う (p169) 中学校特別活動
		▼はしや食器の扱い方などの食事のマナーに関する活動を行い、礼儀作法に込められた心などについて、また日常の各自の体験について話し合う (p122&p126) 小学校道徳
	⑤食事の準備や後片付けを注意深く行う	▼安全・衛生（手洗いなど）に留意して給食の準備や後片付けをする (p205) 小・中学校給食の時間
		▼給食の運搬や配膳を、安全に注意して行う (p207) 小・中学校給食の時間

カテゴリー	サブカテゴリー	学習項目
2) 調理と食事	⑤ 食事の準備や後片付けを注意深く行う	▼給食委員会等が、「給食当番の清潔な服装」等、食に関する学校生活改善のための多様な活動に取り組む（生徒会活動）（p172）中学校特別活動
		▼いつもどんな気持ちで手伝いをしているか話し合う（p123）小学校道徳
		▼「適切な食器具を利用した、献立にふさわしい盛り付け」に注意して給食を準備する（p207）小・中学校給食の時間
		▼給食の際、食事の準備や後片付けを、当番・係・それ以外の者皆が、互いに協力して思いやりや責任を持って自主的に活動する（p207&p208）小・中学校給食の時間
		▼給食の配膳を、輪番制で、全員が経験する（p152）小学校特別活動
3) 世界への窓としての食	① 食に関わる事象に出会うきっかけづくりとして、地域探検を行う	◆探検隊の旗やワッペンを作る（p88）小学校1・2年生活
		◆地域探検の場所の概略をもとに、探検の計画を立てる（p88）小学校1・2年生活
	② 生産、加工、流通、調理等、食事に到る迄の過程を支える環境（物的・人的・社会）に注意を払う	▼ふだん食べている食品のラベルを集め、記載されている産地や食品添加物、賞味期限等について分類し、食品添加物の種類や効果・安産性などについて調べたり着色実験や保存実験をしたりして食品添加物の是非について話し合い、食品添加物の使用と生産や食料事情との関わりを考える（p138&p143）中学校3年総合的な学習の時間
		▼農家の人に教わりながらソバや小麦の栽培・収穫を体験する中で、肥料のやり方や農薬の是非などについて考える（p136）小学校5年総合的な学習の時間
		▼米の産地と種類、歴史、輸出入の状況を調べる（p136）小学校5年総合的な学習の時間
		▼大豆を使った食品（豆腐・味噌・納豆・醤油など）とその作り方や大豆の栄養、大豆の自給率と輸出入の状況などについて調べる（p136）小学校5年総合的な学習の時間
		▼環境に優しく、経済的な調理法を考えることで、調理によって出されるゴミをなるべく少なくし、エネルギーを効率よく使って調理したり、残さず食べたりしようとするなど、自分たちの食事を見つめ日常生活の在り方を見直す（p137&p142）中学校2年総合的な学習の時間
		◆給食の献立を例にして、食べ物がどのような材料からできているかを調べる（p75）小学校6年理科
		◆駅弁に使われている食材を調べ、調べたことについて考察する（p59）中学校社会地理分野
		▼「いただきます」「ごちそうさま」の意味を込めたあいさつを通し、感謝の気持ちをもって、給食を食べる（p208）小・中学校給食の時間
		▼「いただきます」という言葉から思うことについて、また資料「いただきます」を読んで、話し合う（p126）小学校5・6年道徳
		▼昔からの生活習慣としてなじんでいる「いただきます」「ごちそうさま」の言葉やはしの作法などの意味について解き明かしたエッセイをもとに、食事の礼儀作法などについての各自の考えを深める（p131）中学校道徳
		◆家族に感謝の気持ちを伝える手紙を書く（p86）小学校1・2年生活
		◆調理用の熱源や加熱器具の効率よく安全な操作や火加減の調節方法について確認する（p107）中学校技術・家庭-家庭分野

カテゴリー	サブカテゴリー	学習項目
3) 世界への窓としての食	③食物の由来について学ぶ	◆地域の産物を植えている畑や、地域の産物を使った商品を作っている場所の写真や具体物を見る (p88) 小学校 1・2 年生活
		◆植物の体は、根・茎・葉でできていることを確認する (p68) 小学校 3 年理科
		▼自分たちで収穫したソバや小麦で、そばやうどんを打ち、お世話になった人々と味わいながら、地域の食文化をはぐくんできた人々の知恵や工夫について考える (p137) 小学校 5 年総合的な学習の時間
		▼実際に魚を釣って自分たちで郷土料理を作る体験を通して、自分たちの食生活を見直す (p137) 中学校 1 年総合的な学習の時間
		▼近海で捕れる魚の名前や特徴、伝統的な調理の仕方を調べ、実際に魚を捕っている人や捕れた魚を加工している工場の人に取材する活動を通し、昔から受け継がれてきた地域の魚に関する食文化に対する人々の思いや知恵について考える (p137) 中学校 1 年総合的な学習の時間
		▼学年や学校の全員で育てた野菜を収穫し、野菜作りでお世話になった方を招待し、みんなで味わう (学校行事) (p163) 小学校特別活動
		◆野菜の利用部位をもとに野菜について話し合う (p68) 小学校 3 年理科
		▼食卓に上る海産物の種類とそれらが捕れる海域について調べたり、近くで捕れる海産物について漁業関係者に取材して、海が私たちにもたらしてくれる恵みについて考える (p138) 中学校 3 年総合的な学習の時間
		▼海水を蒸発させて塩を取り出す活動を通して、海が私たちにもたらしてくれる恵みについて考える (p138) 中学校 3 年総合的な学習の時間
		◆家庭から身近な種子を持ち寄って紹介し合う (p72) 小学校 5 年理科
		▼郷土の農産物と食物の関係を示したカルタで遊ぶ (p122) 小学校道徳
		◆野菜を、食べている部分ごとに分類する (p68) 小学校 3 年理科
		◆野菜などの植物の体のつくりのうち、人が食べている部分について話し合う (p68) 小学校 3 年理科
		▼全校生徒が、地域の方々とかわりながら学校農園で栽培を行い、収穫を共に感謝し喜びを分かち合う活動に取り組む (生徒会活動) (p173) 中学校特別活動
		◆発芽の条件を踏まえて、持ち寄った種子を発芽させる実験を設定する (p72) 小学校理科 5 年
		◆発芽の条件を確認する (p72) 小学校 5 年理科
		◆日常よく用いる魚について、種類や部位の名称を調べたり、1 尾まるごとや切り身などの実物を計量したり廃棄量を確認したりする (p106) 中学校技術・家庭 - 家庭分野
		▼給食に使われている食材をどこで誰がどんなふう zu 作っているのか、実際に生産地を探検し、作り方・苦労・楽しいと感じることなどをインタビューしてポスターにまとめ、発表会で交流し合う (p136) 小学校 3 年総合的な学習の時間
		▼米や野菜、その他の地域の特産物について、栽培や飼育、稚魚の放流など、食に関する勤労体験活動を行う (学校行事) (p174) 中学校特別活動

カテゴリー	サブカテゴリー	学習項目
3) 世界への窓としての食	③ 食物の由来について学ぶ	◆スーパーマーケットで売られている品物はどこから来るかを調べ、地図やグラフ、表にすることで、他地域との結びつきについて話し合う (p49) 小学校 3・4 年社会
	④ 食物の行方について学ぶ	▼牛乳パックのリサイクルなど、地球環境に優しい環境づくりの活動に取り組む (生徒会活動) (p173) 中学校特別活動
		▼給食委員会等が、「残さいについて」等、食に関する学校生活改善のための多様な活動に取り組む (生徒会活動) (p172) 中学校特別活動
	⑤ 自然の営みの中における「食べること」の意味に注意を払う	◆動物が生きるためには、植物を外界から取り入れなければならないことを確認する (p81) 中学校理科 2 分野
		◆食う・食われるの関係を図で表現する (p75) 小学校 6 年理科
	⑥ 食と自然環境問題とのかかわりに注意を払う	◆農業生産を環境とのかかわりや世界人口の増加の問題と関連させ、農業に起きている問題が、環境や世界の食料不足に与える社会的意味について考える (p52) 小学校 5 年社会
		◆地球環境問題の全体像とそれへの取り組みの様子を、具体的な事例を通して話し合う (p64) 中学校社会公民分野
		◆環境を守るための取り組みについて、身近な地域の様子や世界各国の様子を調べ、21 世紀のエネルギー問題に対する自分の意見を表現する (p64) 中学校社会公民分野
		▼自然環境の変化のグラフから、自然破壊が食物を脅かしていることを読み取る (p131) 中学校道徳
		▼フードマイレージ (食料の輸送距離) について調べ、食をめぐる様々な問題について考える (p137) 小学校 5 年総合的な学習の時間
		▼自然環境が動物に与える影響や食物との関係について、クイズなどを通して考える (p122) 小学校道徳
		▼「環境や資源への配慮」ということに注意して給食を食べる (p207) 小・中学校給食の時間
	⑦ 食にかかわる職場で働く人々に注意を払う	▼学校給食に携わる人達の仕事の様子や、児童への思いについて、栄養教諭の話を聞いたり資料を読んだりし、その人たちへの気持ちについて話し合う (p122) 小学校道徳
		▼農業や漁業に携わる人々の働く姿や働いているときの思いを記した資料をもとに話し合う (p122) 小学校道徳
		◆料理を作ってくれる家族や給食の調理員の方に、感謝の気持ちを込めて、手紙を書いたり、プレゼントを作ったりする (p87) 小学校 1・2 年生活
		▼米作りや野菜作りに一生懸命に励んでいる人たちの映像を視聴する (p132) 中学校道徳
		▼身近で働く人の職場に出かけ、取材や働く体験を通して交流したり、身近にはない職業について考えたりして、社会にある多様な仕事や職業についてその役割・意義について考える (p137) 中学校 2 年総合的な学習の時間
		▼食べ物の好き嫌いをしたり給食を残したりする主人公が、給食センターや給食室で一生懸命働いている人たちを見て自分自身の行動を振り返る話を読む (p122) 小学校道徳
		▼自然の恵みや、食事がつくられるまでに関わった多くの人々への感謝の気持ちをもって、給食を食べる (p208) 小・中学校給食の時間
		▼私たちの食を支える生産者 (農業・漁業従事者) の思いや夢、工夫や情熱について講演を聴く (p138) 中学校 2 年総合的な学習の時間

カテゴリー	サブカテゴリー	学習項目
3) 世界への窓としての食	⑦食にかかわる職場で働く人々に注意を払う	▼米ができるまでの世話について農家の人に教わり、実際に稲を栽培・収穫・炊飯して味わう活動を行う（p136）小学校5年総合的な学習の時間
		▼学校行事などとして行う地域の職場での勤労体験等をもとに、働く目的・意義や、働くことと生きがいについて考える（p170）中学校特別活動
	⑧地域の食文化に注意を払う	▼修学旅行において、実際に食べたり生産活動に参加したりすることを通して、その地域の伝統的な食文化に触れる（学校行事）（p175）中学校特別活動
		◆日本各地にどんな駅弁があるか調べる（p59）中学校社会地理分野
		▼わが家のおせち料理や各地の伝統的なおせち料理について調べ、それらを比較して昔の人のおせち料理に込めた願いについて考える（p137）小学校6年総合的な学習の時間
		◆日本各地の特色ある生活・文化について大観する（p59）中学校社会地理分野
		▼地域の食文化にかかわる郷土食や行事食との関わりに注意して給食を食べる（p207）小・中学校給食の時間
		▼農家の人に教わりながらソバや小麦の栽培・収穫を体験する中で、地域の自然条件の水田耕作への適否などについて考える（p136）小学校5年総合的な学習の時間
		▼各地域にある食に関する特産物と、それらをおいしく調理する方法や郷土料理などを調べ、地域に住む人々の工夫について考える（p136）小学校4年総合的な学習の時間
		◆食材と気候や土地利用、食習慣などの関係を、地図や統計などにまとめる（p59）中学校社会地理分野
		▼郷土の農業の発展に努め、困難を乗り越え食物の開発と増産に努めた先人をえがいた資料をもとに話し合う（p131）中学校道徳
		▼全校発表会などで、地域の伝統的食文化についての学習成果を発表したり、鑑賞したりする（p162）小学校特別活動
		▼地場産業を通じた地域の食料の生産・流通・消費に注意して給食に臨む（p208）小・中学校給食の時間
		▼地域の特産野菜について、調査、栽培、伝統料理づくりなどに地域の方々の協力を得ながら取り組む（クラブ活動）（p160）小学校特別活動
		◆地域の米の食べ方の話を聞く（p85）小学校1・2年生活
		◆地域の産物について、知っていることを発表し合う（p88）小学校1・2年生活
	⑨国際的視野の中での食文化の意味に注意を払う	◆天ぷらそばの食材の生産国を調べ、天ぷらそばが和食か洋食かを話し合う（p64）中学校社会公民分野
		▼受けつがれてきた和食の伝統を守りながら、そのよさを追求している料理家が書いている文章をもとに、我が国のすぐれた食文化や食に関する伝統のよさなどについて話し合う（p131）中学校道徳
		▼世界各国の食文化を表す写真集やパンフレットを見る（p131）中学校道徳
		▼外国の食文化やそれを受け継ぐ人たちの生き方を伝える読み物や映像資料等をもとに、その人たちの思いなどを話し合う（p122）小学校3・4年道徳

カテゴリー	サブカテゴリー	学習項目
3) 世界への窓としての食	⑨ 国際的視野の中での食文化の意味に注意を払う	▼歌舞伎・茶道・和太鼓・和食など、身近にある「和文化」のルーツや内容について、課題別グループで実際に体験しながら調べ、「和文文化ガイドブック」にまとめる (p137) 中学校1年総合的な学習の時間
		▼海外に知られている「すし」「天ぷら」などの日本の料理についての外国人の感想を手紙などで読む (p132) 中学校道徳
		▼国際交流に関するクラブにおいて、外国と日本の両方の食文化に触れる (p161) 小学校特別活動
	⑩ 食と国際的社会的問題のかかわりに注意を払う	◆日本の食料問題をとらえるため、給食の食材から安全性や自給率について話し合う (p51) 小学校5年社会
		◆天ぷらそばの食材のほとんどが輸入されているものであることをとらえ、日本の食料自給率とその変化について詳しく調べ、起こりうる問題について話し合う (p64) 中学校社会公民分野
		◆先進国と発展途上国とのエネルギー需要の不均衡を統計資料からとらえ、世界的に問題になっていることについて話し合う (p64) 中学校社会公民分野
		◆これからの食料生産について、環境と消費者をより大切にしていきながら、国内自給率をどのようにして高めていくかを話し合う (p52) 小学校5年社会
		▼捕鯨問題等、世界の中での日本の水産業の在り方について考える (p138) 中学校3年総合的な学習の時間
		◆世界の食料問題について自分たちができることをグループで話し合い、発表し合う (p64) 中学校社会公民分野
		◆耕地面積の変化、農業就業者数の変化、輸入農産物の変化などのグラフから日本の農業の現状と問題点を調べ、これからの日本の農業について考える (p52) 小学校5年社会
	⑪ 歴史的視野から、食に注意を払う	▼戦争中、食料不足でどの家庭も一日の食事を確保することが大変だったことについて、戦争体験者から話を聞く (p131) 中学校道徳
		▼昔の給食と今の給食を、写真や模型を見て、或いは実際に食べて比べる (p139) 小学校3年総合的な学習の時間
		▼祖父母など身近な高齢者に取材し、昭和初期頃の食事の様子・食材・メニュー・マナーなどについて今の自分たちの食事の様子と比べながら調べる (p136) 小学校3年総合的な学習の時間
		◆戦争中の国民生活を調べ、食事の変化から、当時の国民が生活に我慢を強いられていたことについて調べる (p54) 小学校6年社会
		◆班田収授法のもとの農民の苦しい生活を話し合うことで、身分による食事の違いをとらえる (p62) 中学校社会歴史分野

* カテゴリー「1) 食と、体・心の健康」中のサブカテゴリー「⑥健康と生活習慣全体（食事・排便・運動・休養・睡眠）の中での食に注意を払う」における最下欄の*については、表1直下の欄外注*を参照。

4. 考察

1. これからの公教育にとっての本研究の位置づけ

1) 公教育の役割

公教育、特に義務教育は、特定の職に就く人だけでなく、全ての人々（市民）を対象にした教育－

市民教育－であることが必要である。したがって公教育の役割、すなわち市民教育の役割は、市民それぞれが社会の中で、さらに地球上で生きて行く上で「意味があり意味があると感じられる学び」を支援するものであることが大切である。

2) これからの市民教育の土台として必要な2つの条件

①『学ぶことが有用である』という意識の取り戻し

近年の国際学力調査、TIMSS⁸⁾やPISA⁹⁾において、日本の児童生徒の成績は概ね良好である一方で、学ぶことの有用感や学習意欲に乏しいことが浮き彫りになっている。下田（2007¹⁰⁾）は、この問題は学力の順位よりも深刻であると指摘し、改善には、学習内容と人間の生活との関連性を図る教材開発が必要という考えを述べている（下田 2005¹¹⁾）。

市民教育を実質を伴って機能させるのに必須の条件として、まず「学びが有用であるという意識の取り戻し」が挙げられる。

② 地球市民意識の醸成

これからの市民意識は、次の2つの点で、「地球」という視点を含むものであることが必要と考える。

- i) 市民意識（人間社会の一員という意識）における**社会**を、国内に限定せず、『世界』として捉える意識、すなわち国民という意識にとどまらず、『世界市民』と捉える意識
- ii) さらに「自分も他人も **世界市民**、すなわち**人間社会における一員**」と捉えるにとどまらず、『地球生態系という**自然**を構成する一員』と捉える意識

3) 市民教育カリキュラムの開発における「食」の位置づけ

次に、これからの市民教育カリキュラムの開発を目指す上で、2)で述べた「土台となる2つの基本意識」と「食」とのかかわりについて考えてみる。

①「食」は地球上の万人に共通の最も基本的な行為であり、関心事である。年齢・性別、性格、思想・信条、職業、ステータス、言語、気候・風土、貧富、平和時・戦時、歴史上の時期を問わず、どんなに科学技術文明が発展しようと、人間が行うあらゆる活動は、例外なく一人一人の「食」に支えられ、また影響されている。

②「食」は「世界（人間社会および自然界）への窓」である。「食」は、その行為だけが単独で成立することはあり得ず、さまざまな物事との『つながり』の中に成り立っている。「食」を起点にその『つながり』を探っていくことは、一人一人が認識する世界を広げ、そこでの自分の居場所や役割、よりよい生き方を探ることにも連なる。

3)の①、②で示したように「食」は、2)で述べた市民教育に必要な条件（①、②）を2つとも包含するテーマである。これからの市民教育カリキュラムの開発を「食」を核に進めることが有効であると考えられる所以である。

2. カリキュラム開発研究の最初の手がかりとしての「手引」

本研究では、「食」を核とした地球市民教育カリキュラム開発の最初の手がかりとして「食に関する指導の手引－第一次改訂版－（文部科学省 2010¹⁾）」を取り上げ、そこに例示されている学習内容

を系統化していく方法（広木 2012¹²⁾）をとった。

「手引」には、小・中学校の、「食」にかかわる学習内容が、教科等（社会、理科、生活、家庭、保健体育、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、給食の時間など）の枠組ごとではあるが、**普段は、「食」との関係が時に意識されない領域も含む多領域に渡って例示されている**¹³⁾。生きる上で基本的に大切などんな領域も、「食」と何等かのかかわりがあると考えられるので、「手引き」は、市民の生活に関わる多方面の学びを支援する包括的な地球市民教育カリキュラム開発の最初の手がかりとして有効と考えた。

3. 導出されたカテゴリについて

1) 3つのカテゴリについて

導出された3つのカテゴリにおける学びの性格付けを、表3のように考えた。

表3. 導出された3つのカテゴリの性格付け

		カテゴリ1) 「食」と、体・心の健康	カテゴリ2) 調理と食事	カテゴリ3) 世界への窓としての「食」
各カテゴリにおける学びの性格付け	学びの内容に着目した場合	個体（自分自身）の生命・健康を維持する上で、「食」が重要であることについての学び	現実の生活の中で「食」を実現させる方法・方策についての学び	「食」を成り立たせている世界のしくみを知っていくことに連なる学び
	環境への問題意識との関係 ¹⁴⁾	環境への問題意識がない段階から始められる学び	「食」にとって環境（人的・自然的環境）が大切であることに気づき得る学び	「食」は、 環境と切り離せない関係 にあり、社会や自然というシステムを成り立たせている一要素、という捉え方に到る学び

カテゴリ3)の学びは、地球市民という意識や認識を育む学びであり、考察1の3)の②の条件を具現化したものと言えよう。一方、カテゴリ1)と2)の学びは、考察1の3)の①の条件を具現化するもので、地球市民という意識や認識に連なるカテゴリ3)への出発点として欠かせない学びであると考えられる。

2) サブカテゴリについて

今回、22のサブカテゴリが導出された。

サブカテゴリは、カリキュラム実施に当たって、3つのカテゴリ1)、2)、3)における具体的な学習項目を選ぶ際の目安（枠組）として機能するものと考えられる。

今回の研究結果としてカテゴライズしたものは、今後の市民教育カリキュラムの構築を目指す研究のたたき台と位置づけている。特にサブカテゴリに関しては、今後の検討過程で、取捨選択あるいは新たに加えられることがあると考えている。

ただ、今回導出されたサブカテゴリの中で、**カテゴリ3)におけるサブカテゴリ③（食物の由来について学ぶ）と、④（食物の行方について学ぶ）**は、地球市民教育カリキュラムを構築していく上で、特に重要と考えている。これらのサブカテゴリにおける学びは、学び手が自分自身の「食」から世界を広げていく要（かなめ）となろう¹⁵⁾。

4. 今後の研究の進め方

今後は、①国内外の公教育の学習内容資料（指導要領等のナショナルカリキュラムや教科書）をチェックし、それらが扱っている「食」とかかわる学習内容で、「手引」がカバーしていないものを抜き出す。また、②国内外の公教育が、「食」と直接的な関係を持たせずに扱っている、市民教育としての基本的内容について、「食」とのかかわりを取り入れた学び方を考案する。さらに、③「手引」が例示している学習内容に①、②の学習内容を加えて学習内容相互のつながりを整理し、本研究で導出されたカテゴリーを基本に学習内容を配置した系統化を進め、地球市民教育カリキュラムとして練っていく予定である。

注

- 1) 文部科学省（2010）『食に関する指導の手引―第1次改訂版―，266pp. 平成22年3月，東山書房発行』。
- 2) 松林 昭・広木正紀（2014）「食育の系統化に関する研究（Ⅰ）―食に関する指導の手引（文部科学省2010）における各教科の実践事例に着目して―」．『サピエンチア（聖トマス大学論叢）48号，pp.72-90.』
- 3) 前掲論文2）におけるp.73.
- 4) 広木正紀（2014）「フィンランドの小・中学生は，どんな理科を学んでいるか―学習内容を日本と比べる―」．『京都教育大学紀要 No.125, pp.165-181』におけるpp.166-167.
- 5) 「児童・生徒の活動」として抜き出したのは，「教師側が意図していることが何であれ，学び手が実際に何を学んだかを左右するのは，学び手がどのような活動を体験したかである」という捉え方に基づく。広木正紀（2012）「カリキュラムの編成に連なる教材開発の方策」．『広木正紀・内山裕之（編）小・中・高一貫カリキュラムへの改革を先取りした理科の授業づくり―生活に有用な探究的学びや，社会とのつながりを見据えた工夫事例集―，東京書籍発行，pp.360-367』におけるpp.360-361.
- 6) 前掲論文2）におけるpp.74-79.
- 7) 文部科学省（2009）「心のノート 中学校」，平成21年度改訂版．http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/detail/1302318.htm（最終閲覧：2015年7月16日）
- 8) 国立教育政策研究所（2012）「IEA 国際数学・理科教育動向調査の2011年調査（TIMSS 2011）」．『<http://www.nier.go.jp/timss/2011/>（最終閲覧：2015年7月16日）』。TIMSS（Trends in International Mathematics and Science Study，国際数学・理科教育調査）は，IEA（The International Association for the Evaluation of Educational Achievement，国際教育到達度評価学会）による小・中学生対象の調査。
- 9) 国立教育政策研究所（2013）「OECD 生徒の学習到達度調査（PISA）」．『<http://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/>（最終閲覧：2015年7月16日）』。PISA（Programme for International Student Assessment，国際学習到達度調査）は，OECD（Organisation for Economic Co-operation and Development，経済協力開発機構）による，15歳の子ども達対象の調査。
- 10) 下田好行（2007）「学力調査と学習意欲の喚起―今，学力調査から見えてくるもの―」，8pp.『学習意欲向上のための総合的戦略に関する研究―活用型・探求型の教育の教材開発を通して―，2006（平成18）年度 科学研究費補助金基盤研究（C）研究成果最終報告書（研究代表：下田好行），

国立教育政策研究所, 265pp』における第1章 第1節の最終頁。

- 11) 下田好行 (2005) 「研究の趣旨と経過」. 『学習内容と日常生活との関連性の研究－学習内容と日常生活, 産業・社会・人間とに関連した題材の開発－. 2004 (平成 16) 年度 文部科学省委嘱研究報告書 (研究代表: 小田 豊), 日常生活教材作成研究会 (国立教育政策研究所内), pp.2-9.』における p.2.
- 12) 前掲書 5) における pp.365-366.
- 13) ただし, 食にかかわる実践が教科で行われ, WEB 等で公開もされていて [前掲論文 2) における p.88 の注 (3) で例を紹介] も, 「手引」ではその教科で例示のない場合もある。
- 14) 「食」にかかわる 1), 2), 3) という環境意識・環境認識形成の段階は, 他の事物を学ぶ場合にも共通していることが多いと思われる。例えば『生物と環境』の捉え方にも 3 つの段階「1) 学びの対象となる生物だけに注目し, 環境意識が乏しい段階」, 「2) 対象生物にとって環境が大切であることに気づく段階」, 「3) 対象生物を, 環境と一体のものとして捉える段階」が考えられる [このことには, 既報 [広木正紀 (2012) 「コンテナビオトープー身近に存在する生物の営みを浮き立たせるのに有効な放置実験ー」. 『内山裕之 (編) 新 生物による環境調査事典, 東京書籍発行, pp.273-280』における p.273 で言及した]。
- 15) 生活を支える物の由来や行先を探る学びの意義については「広木正紀 (2002) 理科から環境へ広がる学びー総合的な学習の時間と環境教育」. 『理科教育研究会 (著) 変わる理科教育の基礎と展望, 東洋館出版社, pp.78-89.』で詳述した。